

支え合う関係・ベストパートナー

映画で元気を届ける 二人の映画人の10年、 そして今

映画監督
大友啓史さん

みやこ映画生協
常務理事
榎柊一則さん

「お互いに支え合いながら幸福を追求していくことができる地域社会」の実現を目指して邁進する人々の姿を紹介します。



新型コロナウイルス感染症対策のため、リモートで行われた対談。

盛岡市出身の映画監督・大友啓史さんと、県内各地を飛び回り、映画の上映会を行なっている榎柊一則さん。二人は10年にわたって、親交を続けています。

東日本大震災津波が発生した2011年、NHKを退局し、映画監督として独立する準備をしていた大友監督は「地元が大変な時に、映画を撮っている場合なのだろうか」と自問していました。そんな時、避難所を回って映画の上映会を行い、被災者を元気づけている榎柊さんの記事を見つけました。

「避難所で大変な生活を送っているのに、映画を見ている人たちが、すごくいい表情をしていました。映画には人を元気づける力がある。そう気づかせてくれたのが榎柊ちゃんの活動でした。こちらが勇気づけられまし

た」と大友監督は語ります。その後、宮古で行われたトークイベントに出演。以来、来県する度に顔をあわせ、まるで同郷の幼馴染のような間柄になりました。

「映画館がない地域では、なかなか映画を見に行くことができません。高齢者だとなおのこと。大友監督の映画は、被災した大槌町吉里吉里の砂浜などでも上映しました」と榎柊さん。「あれは楽しかったね。また三陸行きたいよ」と、大友監督も当時を回想します。

月日は流れ、コロナ禍の今、映画業界は苦戦を強いられて

います。「こんな時代だからこそ映画の力が必要です。映画の灯を消してはいけません」と大友監督。また「映画を通じて地域を笑顔にする榎柊ちゃんの活動が、今の岩手の映画文化を支えている」とも。

二人の関係が、今後とも岩手の映画文化を盛り上げていくことでしょうか。



大友啓史さん

1966年盛岡市生まれ。2011年4月NHKを退局し独立。監督作品に『るろうに剣心』シリーズ、『プラチナデータ』、盛岡ロケの『3月のライオン』、オール岩手ロケの『影裏』など。2021年4月『るろうに剣心 最終章 The Final』、同6月『るろうに剣心 最終章 The Beginning』が、2作連続で公開され話題に。



榎柊一則さん

1972年久慈市生まれ。宮古映画生協常務理事。「マリンコブDORA」内で定期的に映画を上映。2011年以降、避難所や仮設住宅を移動しながら、住民に映画を届ける「移動上映」の活動を実施。現在も、岩手県内各地で高齢者などに映画を届けるため奔走中。2016年、第70回毎日映画コンクール特別賞受賞。

●取材協力

株式会社大友啓史事務所/DORAホール(宮古市)



2020年盛岡市にて。写真提供：榎柊一則氏